

科学技術社会研究所 第33回研究会

日程 2012年9月5日(水) 13:00～17:30

場所 目黒区 下目黒住区センター

(1) 「ATT：武器貿易条約の現状と国家」—国家・社会・科学・技術

説明者 菅沼純一

菅沼氏より、前回の「武器輸出3原則の変遷と現在」についての解説に引き続き、標題の解説があった。それによれば、ATTは武器の密輸がアフリカなどでの内戦激化の要因になってきたことへの対策として、NGOによって提唱されたものだが、2006年から国連において条約化に向けた具体的議論が始まった。人道的観点が重視されているが、武器貿易自身を否定するものではなく、国家の貿易管理を要請する条約である。本年7月に条約締結のための国連総会が開催されたが、武器の範囲などについて合意が得られず、交渉は中断しているとのことであった。日本の取り組みについても説明があった。

この解説に関し質疑が行われた。国家管理の強化が紛争国の政府側への加担となる可能性、規制強化が密輸の増大につながる可能性、日本のNGOの国連参加の状況などについて意見がのべられた。 (記 白石)

(2) 世界の動く仕組み

説明者 伊藤泰男

報告に先立ち“世界の動く仕組み”は、チョムスキーの“How the World Works”から借りたタイトルであることが述べられた。報告内容は、“世界の動く仕組み”をチョムスキー他の関連文献を参考にし、私有財産権、資本主義、帝国主義と、それらに対抗する理想主義・人間主義・アナキズム・社会主義リバタリアンを“縦系”に、他方、政治を下僕化し君臨する経済界、教育やメディアを使って行う「合意の形成」、科学技術の体制化・専門化、軍事などを“横系”として捉え、それぞれについて詳細に説明された。また、そのような社会の中で、民主主義、平和、自由、社会主義、社会保障制度等のような私たちに身近な言葉の本来の意味が、現在の社会では異なって教義化された使い方がされていることが説明された。

以上の認識に基づいて、私たちは“縦系”と“横系”で妙みに創出された世界の蝸壺にはまり全体が見えなくなっていること、この蝸壺はヒトの欲望を刺激することによって作為的に誘導されていること、だから堅固な理性を持って自らの蝸壺にはまっている構造を客観化し“世界の動く仕組み”を見抜く努力が必要なこと、そのような真実を知り必要なときには批判精神を発揮することで社会に影響を与えるべきことが述べられた。そのようなことはしがらみの少なくなった老人の方がやりやすく、“晴れて老

人”となってこそ批判精神を発揮することができる」と述べられ、老人は「希望の星でなくてはならない」と強調された。

質疑では意味の確認や解釈についての意見が出されたが、テーマの内容から所定の1時間半の時間では、説明・討議は十分でなく、本議題は引き続き次回にも行うこととした。
(記 安本)

(3) ネパール紀行(苦心談や成果)

説明者 大西輝明

2012年5月～8月の三ヶ月間ネパールに滞在し Tribhuvan(旧王様の名)大学数理社会科学の数学教室とSTSとの共同研究とし“若者の環境意識調査”の報告で、OHPを使っての約一時間の講演であった。

まずネパール国は、首都カトマンズ人口150万、75県有る多民族国家、大統領制に成ったが憲法がまだ無い。演者のスナップ写真に依る、カトマンズ市街、Tri.大学校内、カトマンズ定食等の紹介があった。全体にインド的な印象を強く受けた。ネパールの教育は、小5年、中3年まで義務教育、高2年、大学2年後院2～3年で、高校から英語で授業が行われている。今回の意識調査を当初英文で行ったが十分理解されず、ネパール語で再度行った。調査内容は多岐に亘って居り、その中で大西氏の印象に残った事柄を1、2紹介する。

お手本にしたい国 日本 USA スイス 中国…。嫌いな国 インド USA イラン… ネパール…。その他に、ゴミ処理場と自動車税についてコスタリカ(前回の調査国)とネパールを比較して見ると、町が汚い：ネパール コスタリカ、車が多い：コスタリカ ネパールの現状を反映してか、ネパールではゴミ処理場が近くに欲しい、コスタリカでは自動車税が高い?と両者は全く逆の傾向を示し、社会環境の影響がハッキリ見られた。

この様な調査で社会環境、情報環境、教育環境に依っての人々の意識の違いをモデル化し、定量化したいと大西氏は考えて居り、更なる調査が必要。しかし、こうした調査の定量化は困難が伴うとの意見も出た。
(記 松浦)

(4) 福島高校でのSSH放射線研究会、参観報告

説明者 西郷正雄

8/20, 21 開催された題記研究会の報告がなされた。

先般の原子力発電所事故に関連した講演や、各高校の土壌分析、除染などの研究報告がなされ、その参観の報告が、配布資料(2)「福島高校でのSSH^(註1)放射線研究会参観報告 議事メモ」に基づいてなされた。なお、STSは本「SSH放射線研究会」を支援している。

(註1) SSH：スーパー・サイエンス・ハイスクール

(記 岡田)